



平成28年熊本地震により被災された

皆さま方に衷心よりお見舞い申し上げます。

浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金 「平成28年熊本地震災害義援金」にご協力をお願いします。

平成二十八年五月 第六号

©2016 雅友会

被災地の方々の目に涙

～東北リポート～

鴨池出張所所長 工藤哲修

『あの日』から5年。今年も被災され亡くなられた方々を偲び、復興への決意を新たにす「追悼法要」が、3月4日仙台別院で厳修されました。この日にあわせて、雅友会では日程を組み、被災された方々が身を寄せる仮設住宅での雅楽演奏会&交流会を含め3月2日から4日までの3日間、7名で東北に行つてまいりました。

東北教区は東北6県で一つの教区と広域であり、また福島県以外は一県一組と、鹿児島とはかなり違います。

● 知っていますか？

「福島県復興支援宗務事務所」●

仙台空港に降り立ち、まず福島市にある「福島県復興支援宗務事務所」へ参拝。専従員の柴田さんにお話を伺いました。

今回の東京電力福島第1原発の事故により、現在は居住が許されない避難指示区域が次の3つに区分されています。
①許可なく立ち入ることが許されない

「帰還困難区域」②昼間は自由に立ち入ることが出来るが、会社やお店は開くことが出来ず、そこに宿泊もできない「居住制限区域」③宿泊はできないが、会社やお店を開くことは出来る「避難指示解除準備区域」の3つです。

この避難指示区域内に本派のお寺は7カ寺あり、それらのお寺には住むことが許されていません。ご本尊の持ち出しもできないお寺もあります。これらのお寺は東京電力に対し、賠償金の請求を行い生活の保障と宗教活動の再開を求めています。減価償却の考え方の壁の元、お寺の財物は長年使用し資産価値はゼロであると算出されるため、うまくいっていません。そういった現実を語っていただきました。その復興への事務所がこの「福島県復興支援宗務事務所」です。



また、この場所を利用して、お寺の法要や行事、ご門徒の法事、御骨の預かりなどもされているそうです。

●子どもたちを放射能から守ろう●

2日目は佐々中氏のコーディネートでいわき市の「いわきの初期被曝を追及するママの会」(以下、「ママの会」)代表の千葉さんと、小林さんのお二方にお話を伺いました。

ママの会は2013年1月に立ち上げ、学校や子どもたちが遊ぶ場所での放射線の測定をする「TEAMママベク」子どもの環境守り隊(以下、ママベク)と測定の結果を伝えるためのカフェ活動として「ママ cafe かもみーる」という2つの活動をしています。

5年経つとみんなの関心が薄れて、今では福島に関心を持ってくれるのは宗教者の方ぐらいです、と話されました。活動の原点は、これ以上子どもたちを被曝させたくないという、ただそれだけなのに、「何をそんなに心配しているの。放射線の基準値以下は心の問題」「いつまでそんなこと言ってるの」「ヒステリックな母親の集まり」と冷たくされることもある。確かに、放射線量は各地で「モニタリングポスト」を使い計測されてい

ますが、空間線量だけではわかりません。土壌汚染を中心に、学校や公園などだけでなく安全なのか、危険なのかを専門的な機械を専門の法人「いわきたらちね」から借り、計測を続けています。

地元の中でも温度差はあり、感覚としては8割の人がここに住む限り現状を受け入れていくしかないとあきらめているそうです。

国やメディアといった伝える側は、伝えたいように伝えていく傾向にあるといえます。先日、ある番組で、福岡県糸島市の人たちが福島に野菜を送っているのですが、汚染があるから送っているのに、それでは「風評被害」が起こるから「被災者を思い続けているから野菜を送っている」ということにしましょう、といわれ放送されたそうです。確かに地産地消は大切ですが、セシウム134とセシウム137のみの計測しかしていない給食を食べる子どもたちは「子どもたちが食べているのだから安全だ」という、まるで広告のようです。当初は給食が心配でお弁当を持たせていた親もいたそうですが、他の子が給食を食べている中で、お弁当を食べさせるのはかわいそうで、「体を守るか」「心を守るか」の選択だったといいます。

この「測定」という「数字」で客観的に示すことが大事で、行政との交渉に感情的に怒ったり、泣いたりしても伝わらないのだとか。冷静に現状を伝え、要望をしていくのが最も良い方法だといえます。さらに、行政は男性的なので、母親目線で「ヨチヨチ歩きの子が、地面をはった手を口を持っていく」と、相手に状況が分かるように、工夫して説明を行っているそうです。

しかし、この行政との交渉にも難点があり、「世間体が・・・」「俺の顔をつぶす気か」と家族の理解が得られなかったり、政治活動に利用されるのではと危惧し、進言していく環境が整わないことも多いのだそうです。

これらの活動は、世間に取り上げられないと伝わらないが、取り上げられると周りにばれてしまう。苦労も多いとのことでした。「目に見えないものが相手だから、その人の中身がよく見える」と語っていたいただきました。

カフェは3、4か月に1回、公民館や教会で開催し、測定結果の報告会も開催しておられます。参加者は口コミで広まり、30、40名ほどの方が集まられるとか。そのほとんどはフェイスブックやブログを見て参加される方で、いわゆる

「チラシ」の効果はほとんどなかったといえます。こういふ活動を伝えるのは「顔が見えるつながり」が一番ですと。ママの会との懇談では、多岐にわたるお話を聞かせていただきました。

●避難指示区域の常福寺へ●

コーディネーター佐々中氏から、「居住制限区域」にある東北教区相馬組常福寺の紹介を受けました。地震で本堂は傾き、壁は落ち、放射能で住むことはできません。すべてに目張りがして有り、本堂に入ることもできません。ぐるっとお寺を一周してみました。地震と原発事故との被害を目の当たりにしました。震災当初は、お寺に併設のお墓も被害を受けていましたが、すでにきれいにされていました。

住むことはできないが、立ち入ることはでき、お盆やお彼岸には、お墓参りに来る方も多いそうです。と、常福寺の住職廣畑さんには、法要前日にお会いでき、被災状況についていろいろ話を聞かせていただきました。

この常福寺を訪問した際、1人の男性が私たちに声をかけてこられました。聞くと、当該地区の区長さんでした。

この区長さんからもいろいろお話を伺うことが出来ました。この浪江町に戻りたいと言っている人は、避難している人たちの17%であること、迷っている人は30%ほどだそうです。でも、今後この土地に復興住宅が出来れば、17%よりも多くの人たちが帰ってくるであろうと話してくれました。しかし、それは住み慣れた高齢者がほとんどであろうし、若い世代の帰郷は課題であるとも話していただきました。



●仮設住宅にて雅楽演奏会・茶話会●

3日目は仙台空港近くの美田園第一仮設住宅集会所にて、今回のメインの活動である雅楽の演奏会と茶話会を開催させていただきました。

事前に告知とチラシをお配りさせていただいたところ、28名もの方々にお集ま

りいただいた。

古典雅楽の演奏はもちろん、雅楽の紹介や、現代曲・童謡も演奏させていただきました。その後、みんなでお茶を飲みながらお話しさせていただきました。

初めて雅楽に触れる方、聞いたことがあるけど、生演奏は初めてという方がほとんどでした。涙しながら演奏を聞いてくださる方の姿に心を打たれた。

また、マジックショーをさせていただきましたのですが、心の底から笑っていたので、心の中で「マジックは久しぶりだったよ。楽しかった」と喜んでいただけました。と、鹿兒島の加世田出身の方もいて、親

茶話会の際にいろいろ話していると、鹿兒島の加世田出身の方もいて、親



しみ深
かった
です。中
には、大
きな声
で笑う
おばあ
ちゃん
がいた
のです



が、そのおばあちゃんに「笑う声が素敵
ですね」と声をかけると、ぽつりと「い
っぱい泣いたよ」と話してくれました。
あの日から5年が経ちましたが、今も
悲しみの中にあり、震災は終わっていな
いと改めて知らされました。

最後に、仙台別院で執り行なわれた追
悼法要に奏楽員として出勤させていた
だき、法要終了後、一向は仙台空港に向
かい、帰鹿して我々のボランティア活動
は終了しました。

今回のボランティアで、喜んでくれた
ポイントがいくつもありました。それは、
1つは雅楽そのものに対して。きれいだ
った。やっぱり音楽はいいね。と感じて
もらえたこと。そしてもう1つは、「遠く

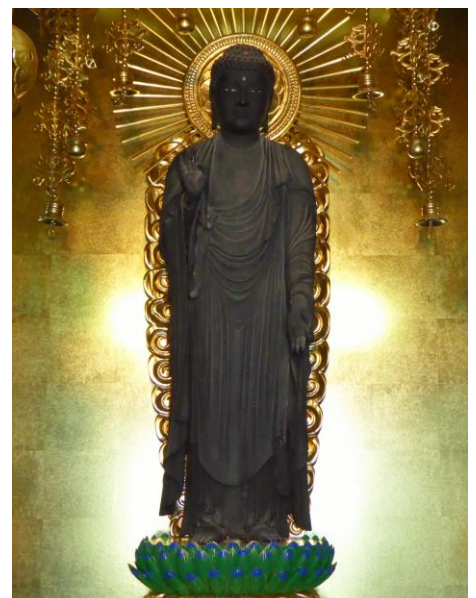
鹿児島からきてくれている」ということ
を喜んでくれていました。やはり、本州
の人から見ると九州は地の果てに思え
るらしいです。そんな遠くから私たちの
ために来てくださって、本当にありがた
い。と。そしてもう1つ、「5年経って、
こうしてきてくれていることがうれし
い」と。忘れられてないんだと感じるそ
うです。雅友会は雅楽を通じて、仏徳讃
嘆をする団体であり、法要に感動を与え
る団体です。そこには、人の心を大事に
していく思いが根底にあるのでしよう。
今回の活動においても、感動で喜んでく
れた皆さんの笑顔が雅友会の宝物とな
った今回の出会いでした。

称名

朋 友 紀 行 2

このコーナーでは、雅友会員の所属寺
のご紹介いたします。第二回目は、雅友
会副会長、南薩組廣泉寺住職の大八木宗
司氏です。

廣泉寺は薩摩半島の西南、南さつま市
坊津町久志という所あります。眼前の海
は中国大陸へと続く東シナ海であり、そ
の昔は、薩摩藩による琉球王朝との密貿易



易で栄えた港町でもありました。

そのような歴史的なご縁もあり、明治
二年、廃仏毀釈により寺院破壊された開
聞山瑞応院（現在の指宿市開聞町・枚聞
神社近く）に安置されていた「阿弥陀如
来像」を、難を逃れるため海路により坊
津町久志に運びこまれ、現在の廣泉寺の
ご本尊としてご安置させていただいて
おります。鎌倉時代末期頃の仏像である
と鑑定をされ、鎌倉仏師快慶の作とも、
またその流れをくむ慶派の仏像である
ともいわれております。

☆雅友会へのお問い合わせ

鹿児島教区教務所内 雅友会事務局

099-222-0051 (担当 片岡)

雅友会ホームページ(鹿児島別院ホームページ内)

<http://www.hongwanji-kagoshima.or.jp/gayukai/>